「笠間市徘徊高齢者等SOSネットワーク」が始まります

近年、認知症により高齢者が徘徊し、行方不明となるケースが増加しています。笠間市では行方不明者が発生した場合などに一刻も早く、無事に発見することを目的とし、11月17日（月）から「笠間市徘徊高齢者等SOSネットワーク」（以下、SOSネットワーク）をスタートします。

SOSネットワークとは？

高齢者等が行方不明になったときや、身元が判らない方が保護されたときに、警察だけでなく地域の方々や事業所の皆さんにご協力をいただき、すみやかに行方不明者を発見または身元を確認する仕組みです。

協力員・協力機関の登録

笠間市では、警察を通して家族から捜査協力の要請があった際に、日常生活をしながら情報提供などの捜索にご協力いただける市民の方を「協力員」として、高齢者の見守り活動にご協力をいただける事業所を「協力機関」として随時募集します。

行方不明者の情報は、防災無線や“かさめ～る”で発信していますが、協力員・協力機関の皆さんには、行方不明者の家族の同意のもと、より詳細な情報をメールやFAX等により提供します。

また、SOSネットワークを広げるため、認知症サポーター講座などをご案内する予定です。

認知症等徘徊の恐れがある方の事前登録

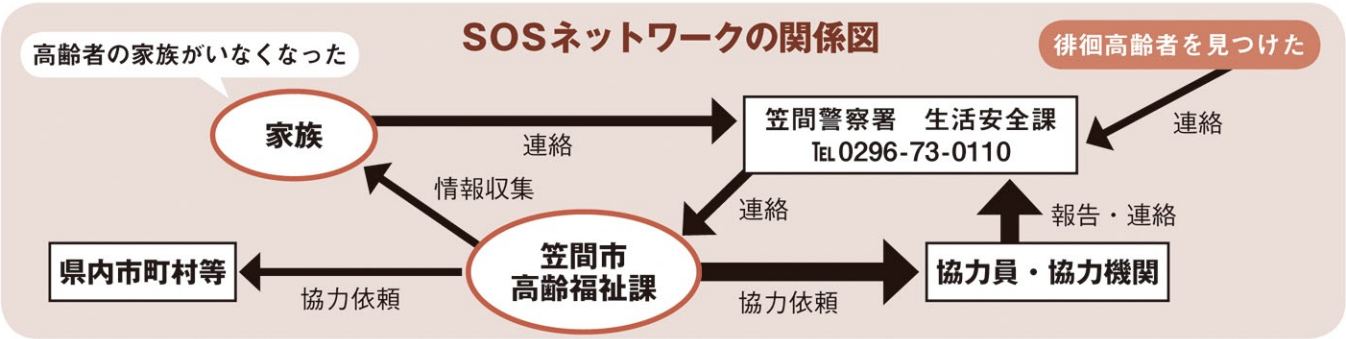
・事前登録届により行方不明になる可能性のある方の名前や特徴、写真などの情報を提供していただくことで、徘徊高齢者等（障がい者、児童も含む）の早期発見に役立てます。

・あらかじめ登録しておくことで、早期発見や、保護されたときの身元の確認が早くできるなど、家族にとって安心につながります。登録は任意です。

SOSネットワークの広域連携

認知症による徘徊は市外におよぶケースもあります。茨城県では県内市町村のネットワークがあり、近隣の都県にも照会ができるようになっています。

SOSネットワークの関係図



【問合せ】高齢福祉課（内線175）

「茨城県シルバーリハビリ体操指導士連合会」県央地域研修会

10月8日（水）、笠間公民館において、笠間市と近隣市町村のシルバーリハビリ体操指導士と関係者を含めた約350名の参加のもと、講演会やパネルディスカッション、全員体操が行われました。シルバーリハビリ体操の普及に向け、指導士の方々の熱い想いが伝わってくる研修会となりました。

笠間市内には自主活動グループが63か所あり、昨年度はのべ約2万人の方が参加されています。指導士会で8月に行った参加者へのアンケート結果をみると、体操の効果が確実に現れているようです。

全員体操の様子

【アンケート結果】

身体的変化	身体の痛みが少なくなり楽になった。 医療機関に行く回数が減った。など
心や気持ちの変化	ストレスが軽くなり楽しいと感じることが多くなった。 教室の仲間やスタッフ、家族以外の人とも会話をする機会が多くなった。など
生活習慣の変化	運動への意識が高まった。 食事内容や食べ方等に気を配るようになった。など

＜教室の問合せ・申込み＞笠間市シルバーリハビリ体操指導士会

会長　横倉（よこくら）　正行（まさゆき）　TEL0296-77-2442
笠間地区支部長　深谷（ふかや）　敏知（としとも）　TEL090-4050-7706
友部地区支部長　市毛（いちげ）　英弘（ひでひろ）　TEL0296-77-4002
岩間地区支部長　石郷岡（いしごうおか）　誠（まこと）　TEL0299-45-7133